

「東北を世界最先端科学技術の拠点に」

世界中の頭脳が集まる国際研究施設、国際リニアコライダー（ILC）の概要や研究内容について理解を深める講演会が7月31日、市文化会館大ホールで行われました。

講演会は、国際経済政策調査会（小柴昌俊名誉会長）が主催したもので、東京大学素粒子物理国際研究センターの山下准教授が、ILC研究の意義や今後の見通しなどを紹介。会場には市民ら約600人が詰め掛け、ILCについて理解を深めました。



ILCの意義について語る山下准教授

加速器を中心とした大型研究施設。加速器で宇宙誕生直後の状態をつくり、時空の構造や宇宙誕生の謎などを解明するものです。

同施設は、世界中の研究者が協力して世界に一つだけ建設するもの。山下准教授は「ILCは人類史上初の世界共同研究所となるもので、非常に意義が深い。北上高地に設置された場合、地域にもたらす影響は非常に大きい」と説明したほか「ILCの建設には地元だけでなく、広い地域での熱意と支援が必要」とも話していました。

研究によって得られるデータや知識は、医療・環境・ものづくりなど幅広い分野に活用されます。また、ILCが設置されると世界中から研究者や技術者などが集まり、国際科学都市が形成されることが期待されます。

「ぶんそう夏祭り」

胆沢文化創造センターで7月31日、開館20周年記念事業「ぶんそう夏祭り」が行われ、家族連れなど約450人が祭りを楽しまました。

中庭で行われたかき氷の早食い競争には、小学生から大人まで24人が参加。冷たさで痛み頭を押さえて一心にかき氷を口に運ぶ姿に、観客から大きな声援が寄せられました。小ホールでは読み聞かせやお笑いショーなどが行われ、夏休みを迎えた子どもと保護者で満員になりました。震災からの復興を願い、入場料は被災地へ寄付されます。



思わぬ冷たさに悪戦苦闘

「奥州メッセ」がオープン



大勢の市民が関心を持って見学

市内工業製品を展示する「奥州メッセ」が7月1日、水沢区東町の空き店舗にオープンしました。

この施設は、工業製品などを広く紹介することで、市内製造業への理解を深めてもらおうと開設したものです。来年3月末までの期間限定で、月曜日定休。ぜひ一度足を運んで、市内企業が持つ優れた技術に触れてみませんか。

「都市計画道路・水沢駅内匠田線が開通」



小沢市長らによるテープカット

都市計画道路・水沢駅内匠田線の開通式は7月1日、市関係者ら約250人が出席し、現地で行われました。

式典では、小沢昌記市長らによるテープカットや、くす玉開披、水沢区42歳厄年連の演舞などが行われ、工事の完了を祝いました。今後、中心市街地活性化のシンボル道路として、市民の皆さんに親しまれることが期待されます。

「Oshu・Kirinプロジェクト始動」



完成したポスター

市とキリングループ（キリンビール・小岩井乳業など）は連携して、Oshu・Kirinプロジェクトを開始しました。このプロジェクトは、

同グループが江刺区で生産されるホップの全量を購入していることが縁で、企画されたものです。

今後、両者は協力して、市のPRや観光情報の発信に取り組みます。その第一弾として、PRポスター5000枚が完成し、県内飲食店などに配布されました。これまでに、市の魅力が発信されることが期待されます。

「おめでとー！市内の5人が満百歳」

市は、多田キヨさん、水沢区羽田町字水無沢、を7月に満百歳を迎えた5人に記念品を贈り、長寿を祝いました。

千葉サツキさん、江刺区愛宕字八日市、は稲瀬上三照に生まれ、故・謙語さんと結婚。親戚から養子を迎え、孫2人、ひ孫5人に恵まれました。米や葉タバコで生計を立て、朝早くから日暮れまで昼休みもせずに働いたそうです。好物のリンゴが長生きの秘訣です。

小野寺トシさん、胆沢区小山字下油地、は、20歳で故・徳二郎さんと結婚。11人の子をもうけ、孫13人に恵まれました。仙台で行商を営んでいました。仙台で行商を営んでいました。仙台で行商を営んでいました。

千葉ハツエさん、胆沢区南都田字石仏、は、20歳で、故・繁治さんと結婚。3人の子を

もうけ、孫4人、ひ孫7人に恵まれました。繁治さんが戦争に行っている間は、農業と裁縫で生計を立てました。歌を歌うのも聞くのも好きで、近所の人を集めてレコードを聞いていたそうです。

後藤マサノさん、江刺区米里字下川辺、は25歳のころ、故・萬之丞さんと結婚。4女をもうけ、孫4人、ひ孫4人に恵まれました。日が昇る前から日が暮れるまで、田畑で働いたそうです。物事をはっきり言うこと、しっかり食事を取ることが長寿の秘訣とい

います。



講演するブラウンさん

「ブラウン名誉教授が記念講演」

水沢区に何度も滞在し、日本の農村文化の研究を続ける米ピッツバーグ大学名誉教授キース・ブラウンさん（78）の来奥50年を記念した講演会

が7月31日、プラザイン水沢で開かれました。

ブラウンさんが、初めて水沢を訪れたのは昭和36年。以来、半世紀にわたって水沢の農村社会や歴史、宗教などを研究してきました。「言葉は大変だったが、水沢の人は親切に接してくれたので苦労はなかった。水沢は、第二の古里です」と、これまでの交流を振り返っていました。



5日 ろうそくを吹き消すサツキさん



8日 次男夫婦とお祝いするトシさん



16日 記念品を受け取るハツエさん



20日 「ありがとう」とマサノさん